

今後の行事予定 event schedule



11月26日  
ボランティア  
交流会

昨年の交流会の様子

担当医表 charge medicine table

		月	火	水	木	金	土
第1 診察室	午前		江頭			江頭	
	午後						
第2 診察室	午前	津出	吉田	山浦	師岡	吉田	担当医
	午後	師岡	本田	高野	高野 金場★	津出	
第3 診察室	午前	馬場	馬場	馬場	馬場	馬場	
	午後			和田山			
鍼灸 治療室	午前	長尾			長尾		
	午後		長尾		長尾		
歯科室 1	午前	田川	田川	田川	田川	田川	田川
	午後	田川	田川	田川	田川	田川	

●統合医療センターについては御幸病院総合受付でお尋ねください  
●王研究員の漢方相談…毎週水曜日の午前・午後 毎週木曜日の午後(15:45～)  
★第1, 3, 5(木) 午後:高野 2, 4(木) 午後:金場

長尾名譽院長 外科(鍼灸漢方)・健康相談を担当します。  
馬場総院長  
吉田院長  
津出診療部長  
川野リハビリテーション部長  
本田消化器・内科医長 内科を中心として、種々の診療を担当します。  
高野内科医長  
山浦医師  
金場リハビリテーション医長  
師岡循環器・内科医長  
磯貝緩和ケア診療部長 緩和ケア病棟を担当します。  
緒方緩和ケア診療部・内科医長  
江頭医師 呼吸器・アレルギー疾患・心療内科を担当します。  
和田山医師 整形外科を担当します。  
田川歯科医師 歯科を担当します。予約が必要です。  
●緩和ケア入院相談 月～土 8:30～17:30(随時)  
相談窓口:地域医療連携センター

ニュース news

流団祭りに参加しました

去る9月27日(土)、28日(日)、熊本市南区流通団地内の流通情報館で「第10回流団まつり」が開催され、多くの人で賑わいました。

今年も、みゆきの里は「無料健康相談」で参加。みゆきの里ブースは、イベント開始30分前の9時30分頃から並んでいる方もおられたほどの盛況ぶり!体脂肪や筋肉量、BMIなどがチェックできる体組成測定、栄養相談、血圧測定を受け、その結果をもとに看護師、保健師、栄養士スタッフが生活習慣などについてのアドバイスを行いました。1歳のお子さんを連れた29歳の女性は「最近、自分の体重や体脂肪が気になっていたのやってみました。血圧も含め、全て正常値だったので安心しました。こういう機会があったら、ぜひまた受けてみたいです」と話していました。



KAB元気フェスタに  
山本総料理長と東島料理長が出演

10月18日(土)、19日(日)にグランメッセで開催される「KAB元気フェスタ」にて、みゆきの里の山本総料理長と、田園キッチンの東島料理長がステージに出演します。みゆきの里が取り組んでいる「命を支えるスープ」について、山本総料理長や東島料理長が説明する予定です。

イベントに先立ち、みゆきの里で提供している「命を支えるスープ」と山本総料理長を、10月8日放送のKAB「くまパワNEWS」で取り上げていただきました。ご覧になった方もそうでない方も、是非当日はグランメッセまでおいで下さい。



KABの取材を受ける山本総料理長

～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～

医療法人博光会  
御幸病院

【診療科目】  
内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・漢方内科・リハビリテーション科・心療内科・アレルギー疾患内科・小児科・歯科・麻酔科(ペインクリニック)  
【医師:岡崎止雄】

【診療受付時間】  
平日 午前8時30分～午後5時  
土曜 午前8時30分～午後12時  
※但し急患は何時でも受け付けます。



詳しくはホームページをご覧ください <http://www.miyukinosato.or.jp/>

【施設概要】

- 緩和ケア病棟: 20床
- 一般病棟 30床(うち地域包括ケア病床14床)
- 回復期リハビリテーション病棟: 60床
- 医療療養型病床: 76床
- 併設: 訪問看護ステーション「みゆきの里」

発行/医療法人博光会 御幸病院  
〒861-4172 熊本市南区御幸苗田6-7-40  
TEL:096-378-1166 FAX:096-378-1762  
メールアドレス info@miyukinosato.or.jp  
ホームページ <http://www.miyukinosato.or.jp/>

みゆきの里  
グループ

- 軽費老人ホーム 富貴苑
- 特別養護老人ホーム みゆき園
- 地域密着型特養 みゆき東館
- 介護老人保健施設 ぼたん園
- ケアハウス ピオニーガーデン
- ウェルネススクエア和楽
- 小規模多機能ハウス ほからか
- グループホーム ほからか
- サービス付き高齢者向け住宅 サンシティハウス
- レストラン ピオサルーテ
- ケアガイドセンター一鷹町
- 熊本市高齢者支援センター ささえりあ平成

# みゆきの里通信

人が人をおもう。人が人をつつむ。



Vol.  
25

2014 autumn / 御幸病院広報誌



新体制で取り組む地域包括ケア

～多職種協働で手厚い  
前方支援を実現!～





みゆきの里 会長  
医療法人博光会 理事長

富島 三貴

みゆきの里通信25号をお届けします。  
みゆきの里の創業の理念は3つあります。  
福祉の原点は在宅にあり、医療と福祉の  
連携、予防が何よりも大事。この3つは創  
業者である父が常に口にしていたことです。  
その理念を実現するために、御幸病院に  
隣接するように介護施設や健康増進施  
設を同一敷地に整備してまいりました。

今や地域包括ケア構想が推進されて  
おりますが、平成元年に制定されたWAC  
法はその前身とも読める内容の法律です。

WAC法に沿って整備してきましたみゆきの里も、広く南区の医療機関・  
介護事業所の皆様と連携を密に取りながら、ご利用者の健康・安心・  
生きがいをさらにサポートしていきたいと考えております。

地域の皆様とより一層の交流が出来るように、窓口機能として「み  
ゆきの里総合相談支援センター」と「地域医療連携センター」を組  
織化致しました。ご紹介をさせていただきます。

人が人をおもう。人が人をつつむ。



みゆきの里

特集

P2 新体制で取り組む地域包括ケア  
～多職種協働で手厚い  
前方支援を実現!～

- P1 会長挨拶
- P2 特集
- P5 みゆきのひとヒト人 磯貝医師
- P6 みゆきの広場 健脳ふりかけ
- P7 今後の行事予定/担当医表/ニュース

## 新体制で取り組む地域包括ケア

# ～多職種協働で手厚い 前方支援を実現!～

高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを全うするため、  
支援体制を整える「地域包括ケア」。  
厚生労働省の方針を受け、今年6月『御幸病院』にも「地域包括ケア病床」が誕生しました。



## みゆきの里夏祭り

8月7日(木)、第26回のみゆきの里夏祭りが開催  
されました。今年は雨が心配され、実際に途中で小雨  
がぱらつく場面もあったのですが、地元や周辺地域の  
皆様を中心に1,500人以上の方々にお集まりいただ  
き、大盛況となりました。

当日の舞台では、巫女舞や園児の皆さんによる「よ  
さこいソーラン節」など、地域の方々が様々な演目を  
披露して下さいました。中でも、みゆきの里の若手女  
性職員による「MKB48」のステージは大人気で、みゆ  
きの里のイベントに毎回来られている方の中には、  
ファンも存在しているようです。毎年恒例の、みゆき  
の里職員の手による夜店も大賑わいでした。

そして最後は、お楽しみ抽選会。富島会長と御幸病  
院の馬場総院長・吉田院長が当選番号の書かれたくじ  
を引く度に、メインステージ前に集まったご来場者の  
皆さんから大きな歓声が沸いていました。



### 地域の中で、新たな役割を 担う「地域包括ケア病床」

地域包括ケア病床は、急性期以降  
の患者様を受け入れ、地域の包括ケ  
アシステムをバックアップするための  
病棟です。「具体的には、在宅の患者  
様の、急変時の受け入れ先という役  
割が大きいですね。例えば、やけど  
をした、熱中症になったなど、命に  
関わる症状ではないけれども、入院が  
必要というケース。再度の在宅復帰を  
前提として、在宅の患者様を受け入

れ、治療するというのが主な役割で  
す」と話すのは、『御幸病院』の総院  
長を務める馬場医師。在宅復帰を前  
提としている地域包括ケア病床では、  
復帰率に基準が設けられるなど、回復  
期リハビリテーション病棟と似た性質  
も持っていますが、さらに地域とのつ  
ながりが強く、幅広い疾患を診ること  
ができるのが特徴です。  
「これまでは、急性期病院からの受け  
入れ患者が多かったのですが、今後は  
より地域に密着した医療も担ってい  
かなければ(馬場)。

### きめ細やかな支援が 高評価につながる

『御幸病院』には、大きな進化を遂  
げたセクションがもう1つあります。  
それは、「医療連携室・相談室」と呼  
ばれていた部署。前方支援(入院)  
や後方支援(退院)、地域の医療機関  
との連携などを担当してきた同部署も、  
今年4月に「地域医療連携センター」  
と「継続療養支援室・相談室」という  
2つのチームへと分かれ、より高度な  
支援を行えるようになりました。



「医療連携室・相談室」の中心人物として、前方・後方支援に携わってきたソーシャルワーカーの林田さんは「入退院時のサポートを、より手厚く行えるようになりました。また、専任看護師、診療情報管理士、訪問看護師など多職種が関わることになり、多様な視点を持って業務に取り組めるようになったんです」と手ごたえを語ってくれました。今回、センター専任となった看護師

の山下さんは「この体制の変化がもたらした改善点は、明確に数字に表れています。」と頼もしい笑顔。「入院患者数が、昨年度の同時期に比べて1.5倍～2倍近く増えているんです。入院数が増えているということは、入院前のご相談や、病床の調整、入院前面談などの付随業務も増えているということなので、ものすごく大変なんです(笑)嬉しい悲鳴といったところですね。

入院数が増えるということは、他医療機関からの紹介が増加しているということ。紹介元の医療機関から「みゆき病院ならきちんと対応してもらえるだろう」と

安心して任せていただけているということであり、それは、やはり平日頃からの密な連携の賜物といえます。具体的な活動として、地域の医療機関への訪問に力を入れているのですが、そこには、「周辺の医療機関の皆さんは、当院に新しい病床ができたことも、相談室の体制が変わったことも、ご存じではないでしょうか。こちらから積極的に『こういう取り組みをしています』とお伝えしなければならぬんです。(林田)」という苦勞も。またご挨拶をすると共に、入院されている患者様の状態について情報交換をすることも多いとか。「転院先の病院のスタッフが来て、顔が見えると不安を取り除くことができるでしょう?」と馬場先生。地域間の情報ネットワークを活用して、患者様に安心を与えられるよう、取り組みを続けていきたいですね。

### みゆきの里 コンシェルジュが登場!

春からの組織改編の一環として、『みゆきの里』全体の相談窓口、いわば「み

ゆきの里コンシェルジュ」が置かれることになりました。新しく総合相談員となった宮本さんは「『みゆきの里』の施設を利用したいけれど、どこに行ったらいいかわからない。そんなときは、私たちがお話を伺って、その方にぴったりの施設やサービスをご提案させていただきます」と説明します。同じく相談員の川崎さんも「ここを利用したいわ」と決めてこられる方もいらっしゃいますが、医療・介護関係の施設は、利用できる基準が細かく決まっているんです。お住まいの地域や介護度、ご希望される内容、予算…それぞれの項目を地道に確認しながら、施設について知っていただけるよう心がけています」とにっこり。親しみやすい雰囲気を作るのも、コンシェルジュの大切な仕事なのでしょう。

ここでもやはり、キーワードは「連携」。月に1回、全施設が集まって会議を行うほか、週に1度は各施設との

情報交換、他の医療機関への訪問も、多職種で集まって行きます。また、現場でもっとも多くの情報にふれている、訪問看護師の皆さんにお話を伺うことも多いそう。4月から地域

医療連携センターに兼務することになった、訪問看護ステーション所長の上野さんは「私たちは、もともと連携を前提として業務にあたっています。医師の指示書がないと、ケアができませんから、日常業務レベルで大きく変わることはありません。でも、周囲の状況を見ていると、国の方針も変わっている、病院のあり方も、地域の組織も動いている。激変している最中にあるんだということは、強く感じます」と思いを巡らせています。



また、診療情報管理士として地域医療連携センターに参加する前田さんは、「新体制に伴い、これまで以上に連携先医療機関のデータが集まっています。このデータを様々な視点で分析し、経営に有益な情報を提供することが私の役割だと考えています」と語ります。みゆきの里とご利用者・地域を有機的につなぐ、総合相談支援センターと地域医療連携センターの取り組みは始まったばかりです。

次回【後方支援編】に続く



御幸病院総院長  
みゆきの里  
総合相談支援センター長  
御幸病院  
地域医療連携センター長  
**馬場憲一郎**



御幸病院  
地域医療連携センター  
室長  
**林田智恵美**



みゆきの里  
総合相談支援センター  
室長  
**川崎悦子**



御幸病院  
地域医療連携センター  
看護師  
**山下雄三**



みゆきの里  
総合相談支援センター  
相談員  
**宮本秀美**



訪問看護ステーション  
みゆきの里  
所長  
**上野久美子**



御幸病院  
地域医療連携センター  
診療情報管理士  
**前田淳**

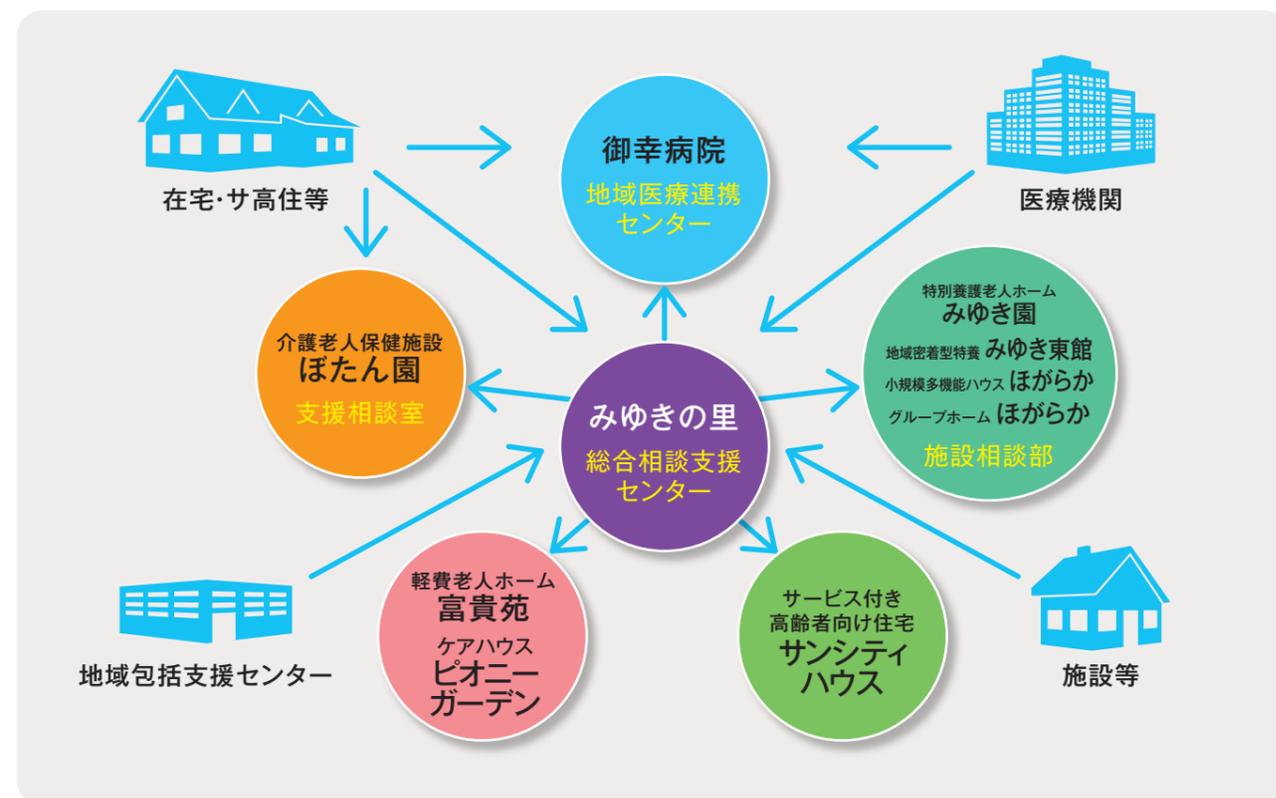
### 地域医療連携センターの役割

#### 前方支援(入院支援)

地域の医療機関や介護施設・事業所等と連携し、患者様を御幸病院の医療(リハビリ・緩和ケア・統合医療等)に繋いでいく「前方支援」を担当する部署。前方連携の窓口を明確化し「地域医療連携センター」として御幸病院内に設置。

入院相談対応・病床管理の役割を担い、186床の病床を効果的に提供できるようチームで活動する。

※後方支援(継続療養支援室・相談室)チーム  
総合相談支援センターとの密な連携が要となる



御幸病院緩和ケア診療部部長

# 磯貝 雅裕

Masahiro Isogai

## 「それでいいんだよ」 ～地域で共有したい ターミナルケアの心構え～

治すことを目指した積極的な治療ではなく、体の痛みや心の苦しみ、不安を和らげる治療を主とする緩和ケア病棟。「その人らしさを全うできるケア」を目指す同病棟の、地域における役割とは？同病棟に、立ち上げから携わってきた磯貝医師に話を聞きました

### —ターミナルケア（緩和ケア）の分野においても、地域間の連携が行われているのですね。

**磯貝** 医療機関や相談施設のスタッフ同士がお互いを訪問したり、勉強会を開いたり、活発なやりとりがあります。地域の医療従事者同士の顔が見えるように、ということを目指しているんです。数年前から、国が「入院患者を長く抱えず、できる限り在宅へ」という流れを作ろうとしているのはご存知でしょうか。

### —伺ったことがあります。在宅でのターミナルケアは増えているのでしょうか？

**磯貝** 市内で少しずつ増えてきているところでしょうか。郡部では、やはりまだまだ少ないです。例えば、病院が何キロも先だったら、往診も難しいでしょうし。ただ、当院でも訪問看護ステーションと連携しての在宅ターミナルケア支援は、要請があればいつでも行うことができるように準備をしています。

### —これから増えていくと考えられますか？

**磯貝** 国が思っているほど、増えないの

ではないでしょうか。理由は、看取る側のご家族の心理的負担が非常に大きいこと。ターミナルケアにおいて、家庭でできることって、そう多くはないですよね。見守ったりとか、身体をさすってあげたりとか。でも「それでいいんだよ」と誰かが言ってくれて、ご家族も「ああ、自分たちはこれでいいんだ」と思えたら、別に点滴がなくてもいいし、心電図がなくてもいい。最期を病院で過ごすのか、家で過ごすのか選ぶことができ、なおかつ心理的なサポートも受けられる…そういう啓蒙を進めることができたら、増えてくるのではないのでしょうか。そういった細やかなケアや心構えを、地域の医療機関同士で共有していけたらと考えています。

### —熊本は全国的にもめずらしいほど、地域間の連携が強いですね。

**磯貝** 緩和ケア病棟では、週に2回ほど周辺の医療機関に病棟の状況を開示しています。今どれくらいの数の患者様が入院されているのか、容態はどうなのか。それによって、周囲の医療機関も受け入れの準備をしたり、病床の数が足りない場合はお願いしたりということがスムーズにできます。医療機関が、それぞれの利益を超えたところで情報共有を行っているのは珍

しいと言われることも多いのですが、自分たちのところだけで情報を抱え込んでいても、結局行き詰ってしまうと思うんです。周囲の医療機関との風通しをよくして、心地よい距離感を保てるよう、取り組んでいきたいと考えています。

### —今後の展望を教えてください。

**磯貝** 来年から緩和ケア病棟は、第三者機関によって審査され、全国の病院と比較した評価を受けることになっています。その評価項目にも、いかに情報開示を行っているかという項目があるんですよ。医療機能はもちろん、遺族による満足度調査をきちんとやっているか。そして、自病棟のスタッフが病棟をどう評価するかも評価基準となります。当院では“多職種”という言葉がキーワードに掲げていますが、緩和ケア病棟も同じです。医師や看護師、介護士などがチームとして、より良いケアに向かっていけたらと考えています。

[profile]  
**磯貝 雅裕** いそがい まさひろ  
 御幸病院緩和ケア診療部部長  
 平成15年より、同院緩和ケア病棟に勤務。  
 熊本ホスピス緩和ケア協会代表  
 <メッセージ>  
 「これからの時間をどう過ごしたらいいのかな」と、一緒に考えていくことが、私たちの仕事だと思っています。不安なことがあれば、何でもご相談ください。



## 院内勉強会を開催しました



御幸病院では外部から講師をお招きし、定期的に勉強会を開催しています。8月には熊本市市民病院整形外科部長の相良孝昭先生にお越しいただき、「骨粗鬆症及び椎体骨折治療の現状」と題して講演を行っていただきました。

骨粗鬆症とはこういった病気で、どのようになるのかといった基礎的な部分から、骨粗鬆症などが原因で起こる高齢者の骨折、特に背骨の骨折について、経過と治療方法を様々なケースに基づいて説明していただきました。

御幸病院でも圧迫骨折後のリハビリで転倒してこられる患者様は多く、また療養しておられる高齢者の方にとっても、転倒等での骨折は大きなリスクとなります。自然とスタッフの関心も高く、講演後の質疑応答では、多くの職員から質問が寄せられていました。

御幸病院では今後もこういった勉強会を開催し、職員の啓発に努めて参ります。

## みゆきの広場

### 「みゆきの里の健脳ふりかけ」

健脳ふりかけは、ぼたん園施設長の江頭洋祐医学博士と、ぼたん園栄養管理科スタッフが考案した、脳の活性化が期待できるといわれる食材を組み合わせで作られたふりかけです。ぼたん園では以前から、認知症予防を期待した「健脳食」を独自に作成し、入所者の方々に提供していましたが、その延長線上で開発されたのがこのふりかけです。

食が細い高齢者の方は、こちらが提供したメニューを残されてしまうことが多々あります。そういった時に、一口二口食べ進める助けとなれば、と江頭医師は思い、周囲と協力してこのふりかけを製品化しました。脳機能の低下を防ぐと言われるヘリセノンを含む“やまぶし茸”



をはじめとした、厳選した食材を使用しています。

そもそも、熊本はふりかけ発祥の地と言われています。その熊本でふりかけを国内外へアピールする「全国ふりかけグランプリ2014」が10月25日・26日にカンントリーパークで開催されますが、みゆきの里もこの健脳ふりかけを出品していますので、ご興味のある方は是非お立ち寄りください。